

災害への備えを強化

各地で訓練を実施

子どもたちの防火意識高める

地域防災スクールモデル事業

地域の防災力を向上するためには、児童・生徒に対し防火や消防について学ぶ機会を拡充していくことが重要です。今年度は、市内3小学校で地域防災スクールモデル事業が実施されました。

油日小学校では1月18日、午前10時に地震が発生したと仮定して避難訓練が行われました。運動場に集合した児童は、市防災担当から火や消火器の取り扱い方法などを聞いた後、煙体験をしました。真っ白な煙が立ち込めるハウスの中を、ハンカチで口を押さえながら身をかがめて通り抜けていました。



▲煙ハウスで煙の怖さを体験



▲非常食の乾パンを試食

佐用町の集中豪雨や今年1月のハイチ共和国の大地震からは、常日ごろの訓練を中心に、日々の備えの重要性も知る機会になりました。当市では、万一の災害に備えて、職員訓練を実施しており、また、1月に入ってからには地域や学校などでも訓練を行いました。

消防と住民が連携

予測もしない自然災害により甚大な被害を受ける日本。15年前には阪神・淡路大震災が発生、多くの尊い命が奪われるなど、自然災害の猛威を改めて思い知らされることとなりました。日本各地では、これを教訓に、災害に強いまちづくりが進められていますが、昨年8月に発生した兵庫県



◀文化財を運び出す住民

文化財防ぎょ訓練

1月26日の文化財防火デーを前に、市内では文化財防ぎょ訓練が実施されました。

1月24日には、信楽町神山区で訓練を実施。同区神山神社で火災が発生したと想定し、消防署員や消防団、地元住民らが連携しながら消火活動や文化財の搬出を行いました。

また、参加した住民は、信楽消防署員から消火栓の取り扱いについて説明を受け、真剣な表情で実地訓練に取り組みました。



▲神山神社での消火活動



▲図上訓練を行う市職員

市役所で防災研修

市役所では、災害時に迅速な情報伝達ができるよう、職員を対象にさまざまな訓練や研修を実施しています。今年度は消防科学総合センター主催の防災力出前研修を実施し、幹部職員が災害対策本部の設置・運営について演習しました。

研修では、三重県境で地震が起きたと想定し、災害対策本部を設置。図面を使って被災状況の情報を収集する図上訓練や消防本部への連絡対応を行い、災害対応に必要な実践的知識やノウハウを身につけました。

災害対応に必要な知識を習得

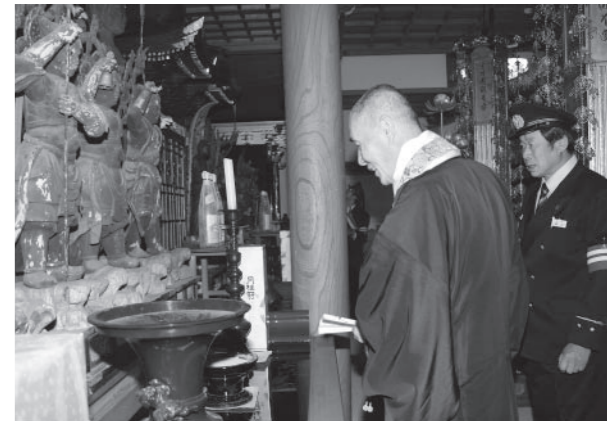
貴重な仏像を火災から守る

文化財特別査察

1月23日から29日の文化財防火運動に合わせ、市内各地の寺院で文化財特別査察が行われました。

1月25日には、重要文化財の仏像3体を保有する水口町松尾の願隆寺で査察が行われ、水口消防署員3名と、市教委の文化財担当が同行しました。

住職が本堂や境内を案内し、署員らが消火器の設置状況や避難経路を確認。講評では、消火器を文化財の近くに置くことや熱感知器を設けること、万一に備えた地域での組織づくりや訓練実施について要請がありました。



▲住職に聞き取りをしながら消防署員らが本堂を査察

平成22年 第1回甲賀市議会臨時会

- 第1回甲賀市議会臨時会が1月26日に開催されました。審議・可決された主な議案は次のとおりです。
- 条例の制定
 - 甲賀市特別職の職員の給与等に関する条例及び甲賀市教育委員会教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例
- 財産の取得
 - 市立小中学校コンピュータおよび周辺機器購入

- 電気カーペットは断熱マットを敷くと熱が床に逃げにくくなり、暖房効率が上がります。家族構成にあったサイズのものを使うだけでも省エネにつながります。
- 寒いときは暖房だけではなく、普段の部屋着の上にカーディガンや羽織るなどすると、体感温度も上がります。

- 家庭でできる冬の簡単省エネ対策
 - 暖房器具の設定温度が低めでも扇風機を併用し、暖かい空気を部屋全体に循環させることで暖房効率が上がります。また、長めのカーテンを取り付けると、窓とカーテンのすき間からの冷気の侵入を防ぐことができます。
 - 電気こたつは、こたつ布団に上掛けと敷布団を使うと省エネにつながります。ほかの暖房器具と併せて使うときは、設定温度は低めにしましょう。

家庭でできる冬の簡単省エネ対策

冬は日照時間が短く気温も低いので、照明を長時間使ったり、給湯器や暖房器具の使用量が増えたりすることから、エネルギーの需要が高くなる傾向にあります。2月は省エネルギー月間です。省エネに取り組みながら、寒い冬を暖かく過ごしましょう。

2月は省エネルギー月間

省エネしながら寒い冬を暖かく

